

大志の学び舎

世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 9年間』

9月の目標

人格の完成を目指して
「勇気」

<安全>

- ・地震から身を守ろう。

<保健>

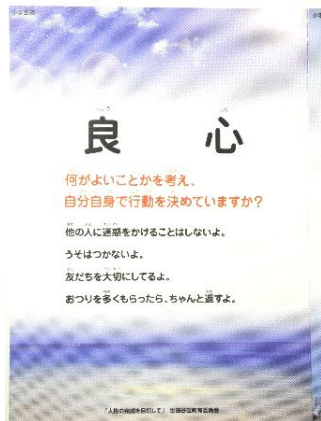
- ・睡眠や休養をしっかり取ろう。

<給食>

- ・食後は休養を取ろう。

<挨拶>

- ・気持ちのよい挨拶をしよう。



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

子どもの姿に感動する大人に

校長 廣瀬 維謙

45日間の長い休みの中、大きな事故やけがの報告もなく、子どもたちが全員そろって元気に2学期を迎えられて、大変嬉しく思います。

さて、日頃お忙しい保護者の皆様も、夏休みの期間中にお子さんと一緒に過ごす時間が多くあった中で「えっ、〇〇ができるようになったんだ」とか「こんなことが言えるんだ」「何だか頼もしくなったなあ」など、お子さんの心と体の成長を感じたことと思います。それは大きな喜びであり、感動的なものだったはずです。

こうした子どもの姿に感動する大人でありたいと私は思っています。なぜなら、子どもの素晴らしさに触れられるとともに、その子の新たなよさや可能性など、様々なことが見えてくるからです。

では、子どもの姿に感動する大人であるためには、日頃どんなことを心掛けたいのでしょうか。決して特別なことでありませんが、次の2点が大事だと考えます。

1点目は、子どもに寄り添った目を向けることです。日常生活の中には、子どもたちの頑張りがよりよい変化、すてきな表現などがあふれています。これらを敏感にキャッチすることができるように、子ども同士を比べず、どの子どもにも共感的に寄り添って見守ることです。そして、その子の頑張る姿や生き生きと取り組む姿を捉え、心を揺さぶられた結果が感動へとつながります。

2点目は、子どもの思いや考えを大切に「待つ」姿勢をもつことです。忙しい、自分がやった方が速い、失敗すると後が大変だなどの理由で、子どもの気持ちを無視して大人が手を出し「待つ」ことをしないと、思いや考えの実現に向けた子どもの言動は停滞してしまいます。「待つ」ことで、安心して表現できる雰囲気生まれ、アイデアを巡らしたり、試行錯誤や挑戦を繰り返したりしながら、大人の想像を遥かに上回る感動的な子どもの姿を見ることができるのです。

子どもの姿に感動した大人はほとんどの場合、その子に感動した理由と共に素晴らしさを伝えます。このことは、子どもの自己肯定感を高め、前向きな行動を引き出し、一層の成長を図るプラスの循環を生み出します。

2学期は一年間の中で一番長い学期であり、1学期が土台作りであれば、2学期はその土台の上に花を咲かせる活動期と言える大事な学期です。その中で、全教職員が子どもたち一人一人と共感的に関わり、「待つ」ことを大切にして、何事にもすすんで挑戦する、失敗にくじけない、他者を思いやる、新たな発想を生み出す、自分で考え判断するなど、子どもたちのすてきな姿に感動しながら、よさや可能性をさらに伸ばしていきます。

2学期もどうぞよろしくお願いします。